

めぐみイエス・キリスト教会

2025年1月19日(日)第三主日礼拝

午前10時より

週報「通算第741号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌148「夕べ雲焼くる」	p. 206
【交読文】	No.50 イザヤ書53章(抜粋)	p. 919
【賛美Ⅱ】	新聖歌299「山辺に向かいてわれ」	p. 476
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【前回説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲「み言葉にかえろう」	
【聖書朗読】	ルカの福音書8章16節～18節	
【礼拝説教】	《神様の明かり》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」	p. 236
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

※本日の聖書箇所(ルカ8章16節～18節)新約p.127下段

8:16 明かりをつけてから、それを器で隠したり、寝台の下に置いたりする人はいません。燭台の上に置いて、入って来た人たちに光が見えるようにします。

8:17 隠れているもので、あらわにされないものではなく、秘められたもので知られないもの、明らかにされないものはありません。

8:18 ですから、聞き方に注意しなさい。というのは、持っている人はさらに与えられ、持っていない人は、持っていると思っているものまで取り上げられるからです。」

●ポイント1. 私たち(クリスチャン)とは？

※エペソ人への手紙2章1節～6節「救われたのは？」（新約p.385）

2:1 さて、あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、
2:2 かつては、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。

2:3 私たちもみな、不従順の子らの中にあって、かつては自分の肉の欲のままに生き、肉と心の望むことを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。

2:4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、

2:5 背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです。

2:6 神はまた、キリスト・イエスにあって、私たちをともによみがえらせ、ともに天上に座らせてくださいました。

※エペソ人への手紙1章4節「世界の基が据えられる前」(新約p.384)

1:4 すなわち神は、世界の基が据えられる前から、この方にあって私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです。

●ポイント2. 明かりとは？

※マタイの福音書5章14節～16節「山上の垂訓から」（新約p.7）

5:14 「あなたがたは世の光です。山の上にある町は隠れることができません。

5:15 また、明かりをともして升の下に置いたりしません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいるすべての人を照らします。

5:16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。人々があなたがたの良い行ないを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためです。」

※ヨハネの福音書9章5節「主イエス様の言葉」（新約p.199）

9:5「私が世にいる間は、私が世の光です。」

◎先週のメッセージ【あなたにとって聖書とは？】

《このたとえば、「種蒔く人」のたとえと言われ、「種を蒔く人」とは、主イエスご自身のことであり、また十二使徒、伝道師、そして私たちをも間接的には指しています。そして、一番大切なことは、このたとえば未信者の人たちに向けて語られたのではない、ということです。

「道端に落ちた種」とは、み言葉を聞いても信じて救われないように、悪魔が来て、その心からみ言葉を取り去ってしまう人たち」ということです。次に、「岩の上に落ちた種」とは、み言葉を聞くと喜んで受け入れますが、根がないので、しばらくは信じていても試練の時に身を引いてしまう人たち」ということです。そして、「茨の真ん中に落ちた種」とは、み言葉を聞いたのですが、時が経つにつれ、生活における思い煩いや、富や、快樂でふさがれて、実が熟すまでにならない人たち」ということです。

そして、最後に言われた「別の種は良い地に落ち、生長して百倍の実を結んだ」と言うたとえこそが、成長したクリスチャンのことです。

彼らは立派な良い心でみ言葉を聞いて、それをしっかりと守り、忍耐して実を結ぶ人たちである、と主は言われるのです。

そして、そのキイポイントとは、「聞く耳のある者は聞きなさい」ということです。み言葉を聞くだけではなく、み言葉に従い実行することが大事なのです。み言葉(聖書)こそ、私たちの道しるべなのです。

良い実を結びするためには、五つのことを尾山先生は勧めています。

1. 毎日聖書を読むこと。
2. 毎日祈ること。
3. み言葉に従うこと。
4. 証しをすること。
5. 教会に集うこと。

このことを真剣に心掛けて行くと、良い実をたくさん結ぶと言われました。日々、聖書(み言葉)を開き、思い巡らし、熱心に祈り、み言葉と共に歩んで行きましょう。時が迫っているからです。》

◎お知らせ

※次回は2025年1月26日午前10時より、通常通り行ないません。